

「高度な知の創成と的確な知の継承」——。岡山大学の理念のもとに教育・研究を展開する個性あふれる教員たち。研究室を訪ねる。

岡山大学産の白桃、ぶどうを使った「岡大農場」スイーツ



“岡山大学産”果物の魅力 スイーツで売り込む

岡山大学の実習用農場で育ったフルーツを使い、今年度から販売を開始した「岡大農場」ブランドのスイーツ。第1弾の白桃に続いて「ぶどう」の新商品も2013年2月から販売を開始するなど、岡山大学の土産としてだけでなく一般の人からの注目も高まっている。この人気商品を仕掛けた中心人物が、環境生命科学研究科（農）の舟橋弘晃教授だ。植物・農芸の専門家ではない舟橋教授がなぜスイーツ開発に取り組んだのか。開発の秘密と今後について聞いた。



▲商標登録した「岡大農場」のブランドロゴ

え、「動物系教員だから牛乳と岡山大学産果物を使ったアイスクリームを作りたい」と思いついた。アメリカ留学時代、大学構内で大学産牛乳を使ったアイスクリーム店が人気を集めていたことも頭にあり、提案してみたところ学部内から賛同の声が集まり、開発をスタートした。

年間通しアピール

元々、岡山大学産の白桃やピオーネなどは品質の良さや味わいで地域の人気が高かったが、販売できるのは1年間のうち限られたシーズンだけ。形が悪いだけで贈答用販売できなかったものを加工用に回すことで「年間通して岡山大学産果物の良さをアピールできる」と考えたという。実際に商品を製造する岡山県青果物販売協会の協力のもと、第1弾、2弾ともに半年以上試作を重ねた。

「甘いのが好きなので楽しんで開発している」と舟橋教授。試作品は農学部教員や事務職員、学生にも試食してもらい、率直な意見を商品に反映する。「農学部は女子学生も多くスイーツ開発には最適。食物や植物にもともと興味関心があるせいも、シビアな意見を言ってくれる学生も多い」という。当初のアイスクリームの夢から発展し、さまざまな失敗を重ねながら、白桃はジュレ、プリン、アイス、ぶどうはジュレ、ゼリー、アイスのそれぞれ3種が誕生した。

ブランドロゴは自筆

スイーツ開発と同時にブランド名の商標登録にも取り組んだ。「岡山大学の名前を全国に売り込

めるし、同一ブランドの商品のクオリティを保証することで、質の良い農産物を生産する意欲にもつながる」という思いのもと、国立大学らしく古風で硬派な雰囲気「岡大農場」という名称と、青空に白い雲が浮かぶ広大な農場をイメージしたデザインを採用。登録後はスイーツだけでなく農産物にもこのロゴを貼って販売し、徐々に認知度を高めているが、実はロゴの文字は舟橋教授の自筆。「イメージを伝えるためにさりと書いてみたら、そのまま採用されてしまっ」と舟橋教授は苦笑する。

第1弾の白桃ジュレは売り出してすぐに売切れるほどの人気に。販売場所も大学生協や岡山県内百貨店だけでなく、岡山空港、JR岡山駅でも販売されており、多くの人が手に取れるようになってきている。東京のイベント出品時にも人気を集め、「大学産商品のイメージを変えたくて、大学らしからぬ「少し高め」の値段設定が高級感を生み出したのかも」と分析。既に第3弾も検討中で「大学土産の枠を超え、街で愛される土産物にしていければ。大学と街の魅力を発信する商品にしていきたい」と語る舟橋教授。「もちろん専門分野にも力を入れて頑張りますよ」と念を押した。

FUNAHASHI Hiroaki (51歳)
 ▶1961年 滋賀県栗東市生まれ
 ▶1985年 岡山大学農学部 卒業
 ▶1987年 岡山大学大学院農学研究科修了
 ▶1987年 全国農業協同組合連合会飼料畜産中央研究所 研究員
 ▶1990年 岡山大学大学院自然科学研究科修了、学術博士(岡山大学)
 ▶1991年 米国ミズーリ大学コロンビア校農業食品自然資源学部 博士研究員
 ▶1994年 米国ミズーリ大学コロンビア校農業食品自然資源学部 研究専任助教授
 ▶1996年 岡山大学農学部 助教授
 ▶2000年 岡山大学大学院自然科学研究科 助教授
 ▶2007年 岡山大学大学院自然科学研究科 准教授
 ▶2008年~2011年 スペインムルシア大学獣医学部 非常勤講師
 ▶2011年 岡山大学大学院自然科学研究科 教授
 ▶2012年 岡山大学大学院環境生命科学研究科 教授(現在に至る)

舟橋 弘晃

環境生命科学研究科(農) 教授